

世界中の子どもたちへ

Lindgren loved by the Swedish

ピippiの生みの親

リンドグレンが愛したスウェーデン



児童文学作家としてだけでなく、社会のオピニオンリーダーとして、そして一人のスウェーデン人として、スウェーデン国民が心から敬愛する女性、アストリッド・リンドグレン。「長くつ下のピippi」「やかまし村の子どもたち」「ロッタちゃんシリーズ」など、日本でも絶大な人気を誇るリンドグレンの作品と、彼女の生き方を通して、スウェーデンという国を見つめます。

最終回

スウェーデンの明日のために

イーダの夏の歌

そして子どもたちのために
野イチゴをつくるの
子どもたちには
野イチゴがなくちゃダメだもの
子どもたちが小さいときには
ほかに楽しいものがなくちゃ
だめなもの。
子どもたちが走りまわれる
ような楽しい場所をつくるの
そしたら子どもたちは
夏でいっぱいになって
脚が駆け足でいっぱいになるの
(映画「レンネベリアのエイミル」
挿入歌 歌詞 A・リンドグレン)

監修: 齋藤惇夫

作家・児童文学者。福音館書店の専務取締役(編集責任者)として子どもの本の編集に携わり、2000年に退社、創作活動に専念。著書に『グリックの冒険』(岩波書店・日本児童文学者協会新人賞受賞)、『冒険者たち』(岩波書店・国際アンデルセン賞優良作品賞受賞)、『ガンバとカワウソの冒険』(岩波書店・野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞優良作品賞受賞)、『哲夫の春休み』(岩波書店)などがある。

取材協力: 岩波書店

が使われています。そう、リンドグレンの言葉は、スウェーデン中で生き続けているのです。聖書の知識がなければヨーロッパ文化を深く理解できないのと同様に、リンドグレンについての知識がなければ、スウェーデンの現代文化を深く理解することは難しい——新聞さえ読めないと言っても過言ではないのです。

一番の人気者

スウェーデンの有名新聞社が毎年行う人気投票で、リンドグレンは1990年から7年連続で一位に輝きました。歌手や俳優、国王、スポーツ選手などの人気者が候補に挙がる中、他を大きく引き離しての一位です。主催した新聞社の編集長はその結果について「リンドグレン作品が子ども時代だけでなく、スウェーデン国民の一生にずっと関わっているからだ」と分析しています。子どもの頃に夢中になった物語が、テレビで流れ、繰り返し再放送される。そして成長し、社会と向き合う頃には、さまざまな社会問題について、リンドグレンの述べる意見に耳を傾けることができ、共にスウェーデンの行く道を考えることができる……

リンドグレンの正義と優しさは、一生を通じてスウェーデン国民一人ひとりの心の支えとなっているのです。

リンドグレンの90歳の誕生日には、国会が満場一致で「議員一人につき一本ずつ、ケニアの植林運動のために苗木を贈る」という決議をし、彼女の誕生日を祝ったと言います。そしてその前代未聞の決議報告をもって、国会議長はリンドグレンのマンションを訪問しました。

スウェーデン国民が心から愛し、誇りに思っているリンドグレン——多くの国際的な賞を授与され、国王主催の外交パーティーにも呼ばれ、テーマパークが建設され、けれど、リンドグレン自身は「どうして自分がこんなに注目されるのかわからない」と繰り返し話っていたと言われています。

もちろん、作家としての自分の人生を振り返り、誇りに思ったというエピソードもあります。1994年に「もう一つのノーベル賞」と呼ばれる「ライト・ライブリッド賞」を受賞した際、彼女はスピーチの中でこう語っています。

……ある時、私が道で知人と一緒にいた時に、ある知らない女性がやっ



て来て、私に夕食の買い物リストを書いた紙を突き出しました。そのリストの上には斜めに大きな字で「私のみじめな子ども時代に金色の夢をくださった、ありがとっございまして」と書かれてあったのです。私はちよつと嬉しくなって、もし私がみじめな子ども時代に金色の夢をあ



『長くつ下のピippi』 桜井 誠 絵

明日を夢見て

2002年1月28日、リンドグレンは94歳の生涯を終えました。翌日のマスコミは彼女の逝去をトップで伝え、国中が深い悲しみに包まれました。

「遊んで、遊んで、遊び死にしないのが不思議だった」という子ども時代を経て、挫折を知り、大きな孤独と向かい合い、それでも希望を見失わないで彼女が書き続けた物語は、スウェーデン国内だけでなく、国境を越え、海を越え、世界中の子どもたちに「金色の夢」を与えてくれました。

晩年、リンドグレンは「私の人生の大部分は小さな子どもたちのことを考えて、考えて、考えることに捧げられている」と語っています。全ては子どもたちの明日のために……子どもが子どもらしく遊べるスウェーデン、安心して大きくなれるスウェーデン、自由で平等なスウェー

デン、自然と共存できるスウェーデン……物語を書きながら、社会に対して意見を述べながら、リンドグレンが願っていた「スウェーデンの明日」は、今、リンドグレンを心から信頼し、尊敬し、愛しているスウェーデン国民一人ひとりに受け継がれています。これまでも、そしてきっとこれからも、さまざまな分野で注目を浴びるスウェーデンという国の姿勢を見る時、私たちは軽やかにピippiのダンスを踊るリンドグレンの姿を、思い出さずにはいられないのです。

※文庫は「三瓶恵子著『ピippiの生みの親』アストリッド・リンドグレン」(岩波書店刊)によります。



げることができたのなら、私は生涯で何かを成し遂げたことができたのかなと思つたのです。

そして、花束を受け取つたリンドグレンは、ピippiのダンスを踊るようにながら、席に戻っていきま

『やかまし村の子どもたち』
イロン・ヴィークランド 絵



リンドグレンは高齢になっても、自分の耳の不自由なことや繰り返し言うことなどをネタに、得意のユーモアや気の利いたジョークを飛ばしていた。
出典:『愛蔵版アルバム アストリッド・リンドグレン』



Present
リンドグレンの代表作『長くつ下のピippi』を抽選で3名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のコミュニケーションカードまたは郵便はがきに、賞品名・住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、ご応募ください(3月20日消印有効)。郵便はがきでご応募の場合、P.26の「お便り募集」の宛先までお願いいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。